



飛び出して

学校から

実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。

「学習指導要領解説 総合的な学習の時間の目標」一部抜粋



2学期が始まり、各学年の「総合的な学習の時間」での学びが活発に行われています。本校の「総合的な学習の時間」の内容は、主に地域や社会を学ぶ活動を行っています。

1年生は、羽幌町にある公共施設や町内で営んでいる事業所などへの取材を基に、町紹介のパンフレットを作成する活動を行います。町の特長や課題を見付けるべく、地域の方々とのコミュニケーションを通して、改めて中学生としての学び方を身に付けてもらいたいと考えています。

自分たちで課題を見付け、仲間と知恵を合わせて協力しながら解決させ、そこから得た情報を分かりやすく発信するという学習をメインとしています。



2年生は宿泊研修の活動の一環として、地域の特産品を販売する活動を行いました。深川市の道の駅「ライスランドふかがわ」にて、羽幌町と苫前町の海産物や農作物などを観光に訪れたお客さんに販売しました。

また、深川市の果樹園では、リンゴ生産に携わる貴重な体験をさせていただきました。なお、これらの活動にご協力いただいた、町内各事業所（JA羽幌、梅月、蛭名漁業部、きたる、沿岸バス、サンセットプラザ、観光協会）の関係者の皆様、また、深川市の道の駅及び「はやし果樹園」の皆様には多大なるご協力を賜り、感謝申し上げます。ありがとうございました。

このように学校内ではできない多様な活動を体験して学んで帰ってきました。



3年生は2泊3日の修学旅行でした。

初日の札幌市では、各種専門学校を訪れ、興味のある職業に関する様々な体験をさせていただきました。2日目は小樽市にて、国際的ににぎわう観光各所で取材活動を行いました。午後からは、京極町の自然河川を活用したラフティングを体験しました。3日目は、お寺での座禅体験と、観光スポットの「伊達時代村」を訪れ、充実した3日間を過ごしました。

多様な体験から他地域の特性に触れることで、改めて羽幌町を振り返ることができたと同時に、挨拶をはじめとした礼儀・マナーや、集団生活で大切な時間厳守についても学ぶことができました。

これらの各学年での貴重な体験的な学習を他教科と関連させ、子どもたちの「深い学び」を確かなものにしていきます。



「東大式インプット大全」

A I は驚異的な速さで進化し、いつの間にか私たちの生活に密着するようになりました。本校の先生方も日常の業務にて活用し始めています。今後は、子どもたちへの適切な活用のさせ方についても、学校教育の大切な要素になりそうです。

また、これからの学校では、A I によって知りたいことを簡単に短時間で調べられるため、単に「覚える」という能力は重視されなくなるでしょう。現に今でも、例えば歴史の学習にて、出来事の流れや起こった原因、社会への影響や人物の関連などを「まとめり」として理解することが求められています。単に出来事の名称や年号、人名のみを記憶しても役に立たないということです。

「言葉や年号は覚えられても関連性が難しい…」という子は少なくはありません。「自分は頭が悪いから…」と、半ばあきらめる子もいますが、そんなはずはありません！頭が悪い子なんていないのです。

それは、**学び方が間違っている**だけです。

書籍「東大式インプット大全（著：西岡竜誠 出版：アスコム）」の紹介文には、「東大生は地頭が良いと思われがちだが、そうではなく、正しい学び方を知っているから自然と身に付くのです。東大生はやみくもに学びません。いきなり参考書を買ったり、関連動画を見たりしません。そうした、場当たりの勉強は挫折しやすいのです。まず**「なぜ学ぶか」を決め、誰から学ぶかを選び、いつ・どこで学ぶかを整え、その後で、覚え方を工夫**します。こうした**「順番」を守る**ことが重要です。特別なやり方ではありません。誰にでもできます。偏差値35から東大に合格した西岡竜誠が、自らの経験と、東大生1000人への調査を基に最短で最大の成果が出せるインプット法を体系化しました。東大生が本当に実践している、すぐに役立つ方法が100メソッド掲載されています」と記されています。

また、本文で印象的だったのが、「『人に教える』が、けっきょくよく学べる（「話せる知識」こそが「身に付いた知識」）」という部分でした。つまり、インプットする内容を系統的に理解し、それを他者に説明（アウトプット）するまでをゴールとすることが大切であるとのこと。実際に勉強内容を自分の部屋のぬいぐるみに説明して定着させている東大生がけっこういるそうです（不思議な光景ですが…）。

「今日、学校で勉強したことを教えて」とか「覚えたことを説明して」とか、お父さんやお母さんを相手に説明する、教える…。家族そろって学びの質を高める、そんな光景はとってもステキです。よかったら、時々お家でトライしてみてください！

「学びを求める羽中生」3つのポイント これができるようになってほしい！

「羽中だより8月20日号」より

今回のポイント



勉強の必要性を考える



自分に合った勉強法を見付ける



他者に教えることができるまで学ぶ

先日、後期生徒会本部役員立候補者の立会演説会を行いました。今回は立候補者が定数のため、無投票当選となり、以下のメンバーによって新生徒会本部が結成され、任命式を行いました。

会 長	○	○	輝（2年）
副会長	○	○	誠（2年）
書 記	○	○	栲（2年）
書 記	○	○	輝（1年）
会 計	○	○	整（1年）

演説会では、「校則の見直し」「異学年の交流」「学びを求める羽中生」に関することが立候補者の公約として述べられました。

その中で、昨年度から現在の前期本部役員が本格的に取り組んでいる「校則の見直し」について、演説会の終わりに校長から以下のような話をしました。

校則の見直しは、本部中心にいろいろな人の意見を尊重しながら丁寧に進めているので、時間がかかっているようだ。これは単に多数決で決めるものではない。賛成あるいは反対が多いから決定とするのではなく、誰もが妥当だと思えるもの、つまり「納得解」を整えることが大切である。

昨日は前期会長から「校内でのTシャツの色や柄」について、ルール（校則）が示されました。

- ◆色は自由であるが蛍光色は禁止。
- ◆柄は自由であるが不適切なものは禁止。

みんなで決めたルールです。せっかくなので生徒の皆さんには違反か否かのみならず、一人一人が適切に考え行動できるようになってほしいです。

ご家庭におかれましては、本校の校則は時折変わることもあるため困惑するかもしれませんが、子どもたちが真剣に考えて定めているものですので、ご理解とご協力をお願いいたします。